
観光まちづくり宣言

～市民も地域も産業も生き生き！笑顔がつくる観光地「石狩市」～

平成 29 年度～平成 33 年度 第 2 次石狩市観光振興計画



表紙の絵 「郷土資料館」 渡辺 ひな さん（浜益小学校 6 年生）
2016 年度「絵で伝えよう！わたしの町のたからもの」絵画展
（平成 28 年 10 月 石狩ユネスコ協会主催）
「日本ユネスコ協会連盟会長賞」受賞作品

平成 29 年 4 月

石 狩 市

目次

I 計画策定の趣意

- 1 計画策定の趣意…………… 1

II 背景

- 1 国の動向…………… 2
- 2 北海道の動向…………… 2

III 石狩市の観光を取り巻く現状と課題

- 1 現状…………… 3
- 2 課題…………… 6

IV 目指す「石狩市の観光」の姿

- 1 計画の期間…………… 9
- 2 計画の位置づけ…………… 9
- 3 計画の具体的な展開…………… 11
- 4 計画の進行管理…………… 15
- 5 計画の推進体制…………… 15
- 6 計画のキャッチフレーズ…………… 16

V 計画策定にあたって

- 1 石狩市観光振興計画検討会の開催…………… 17

I 計画策定の趣意

1 計画策定の趣意

石狩市では、平成19年3月に初めて「観光振興計画」を策定し、石狩の宝を発見して磨き、観光のまちづくりで地域を潤す「石狩の宝発掘宣言」という基本理念のもと、石狩鍋復活プロジェクトや恋人の聖地プロジェクトなど多彩な観光施策を進めてきました。

現在、策定から10年が経過し、全国各地においては観光客の誘致により地域経済を活性化させようという取り組みに更なる力を入れており、また、観光客のニーズの多様化も進み、さらには、国をあげて外国人観光客の誘致に向けた取り組みを活発化しているなど、時代の変化に対応した観光振興計画の改訂が必要とされています。

また、今回は産業振興関連計画（農業振興計画、漁業振興計画、地場企業等活性化計画）の各計画と一体的に改訂を行ううえで、各計画の共通テーマとして「地域づくりの基盤としての観光を視点とした産業振興の推進」を掲げており、観光振興計画においても、地域の魅力を発信することにより、地域づくりや地場企業等の産業の振興にも寄与するという考え方も盛り込みながら策定しました。

本計画は、これからの時代を見据え、前計画で発掘した「石狩の宝」に更に磨きをかけて情報発信を強化していきながら、市民や観光事業者、地場企業等が一体的となって石狩市らしい観光まちづくりや産業振興を推進していけるように今後の観光振興に関する施策展開の方向性を示すものであります。

Ⅱ 背景

1 国の動向

国においては、少子高齢社会の到来や本格的な国際交流の進展を視野に、観光がその使命を果たすことができる観光立国の実現を国家戦略として位置付け、「観光基本法」を全面改正した「観光立国推進基本法」が平成 18 年 12 月に成立し、平成 19 年 1 月より施行されています。また、平成 20 年 10 月には国土交通省に観光庁が設立されるなど、観光立国の実現に向けた取り組みを推進しています。

近年では、新たな成長戦略として、「日本再興戦略 2016」を閣議決定し、2015 年に 1,974 万人の訪日外国人旅行者数を「2020 年に 4000 万人、2030 年に 6000 万人」と従来目標の「2020 年に 2000 万人、2030 年に 3000 万人」から大幅な上積みを行い、受け入れ環境の整備も急ぐこととしています。また、「観光は地方創生の切り札とし、観光が持つ広範な経済波及効果を念頭に、インバウンドと国内観光の両輪による観光振興を図るとともに、特定の地域に集中している国内外の旅行者を全国各地に分散・拡大させていく」ともしております。

2 北海道の動向

北海道では、「北海道観光のくにつくり条例」に基づき、本道の観光振興に関する施策を総合的、計画的に推進するため、「北海道観光のくにつくり行動計画」を策定し、観光事業者や観光関係団体はもとより、観光にかかわるすべての関係者と連携・協働し、各般の施策を推進することとしています。

本道の観光入込客数（実人数）は、平成 23 年の東日本大震災の影響により、一時的に落ち込みましたが、平成 24 年度には回復基調に転じ、高速道路の延伸や航空路線の新規就航といった交通アクセスの向上などにより、平成 27 年度には、5,477 万人と過去最高を更新し、中でも訪日外国人来道者数は、初めて 200 万人を超え、過去最高の 208 万人となり、我が国の訪日外国人旅行者の約 1 割を占めています。

こうしたことから、道では、国の動向も踏まえ、2020 年を目途として、300 万人を超えるさらなる高みを目指し、外国人観光客の拡大により、地域経済の活性化や雇用の維持・拡大につなげていくため、観光をビジネスチャンスとしてとらえ、「観光で稼ぐ」という道民意識の醸成を図るとともに、広域観光に資する空港運営の民間委託や地域の DMO[※]の形成といった受入体制の整備、マーケット分析に基づく戦略的な誘致活動など、「世界が憧れる観光立国北海道」の実現に向け、官民一体となって取り組みを進めています。

※（日本版）DMO 地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人（国土交通省観光庁 HP）

Ⅲ 石狩市の観光を取り巻く現状と課題

1 現状

本市は、古くからサケやニシンに代表される漁業とともに発展した固有の歴史・文化を持ちながらも近年では、石狩湾新港地域という札幌圏の生産・物流拠点としての近代的な機能も有するまちです。また、道内最大の人口を有し、道内外からの多くの観光客が訪れる札幌市の北側に隣接しているなか、「海・山・川」全てが揃った自然豊かな環境は、「北海道の魅力」を日帰りドライブの距離で楽しむことができる魅力も有しております。

本市は、平成17年の厚田村・浜益村との合併を機に、市域は南北に約67kmにも広がり、暑寒別天売焼尻国定公園をはじめとした雄大な自然やホタテやハタハタ、浜益牛や望来豚などの豊富な食、果物狩りやシーカヤックなどの体験型観光も新たな魅力として加わることとなりました。

多彩なイベントも開催されており、石狩さけまつりをはじめとした本市の歴史・文化を象徴する「石狩市三大秋祭り」や地産地消をテーマとした「石狩まるごとフェスタ」、自然体験と健康を掛け合わせた「浜益『いっぺ、かだれや』ヘルシーウォーク」、さらには全国的に有名な音楽フェスティバル「RISING SUN ROCK FESTIVAL IN EZO」も石狩を発信する魅力の一つです。このほか、本市は札幌圏内で唯一、海に面しており、北海道内の海水浴場において最大の入込客数を誇る「あそびーち石狩」や大都市近郊にもかかわらず、ハマナスやハマボウフウに代表される海浜植物群落などの豊かな海辺の自然が残る全国的にも貴重な自然海岸が広がっています。

平成30年には、厚田区に道の駅石狩「あいろーど厚田」が開業する予定であり、地域振興の核として、また、石狩北部地域も含めた市内周遊の拠点施設としての役割が期待されているところです。

(1) 観光入込客数

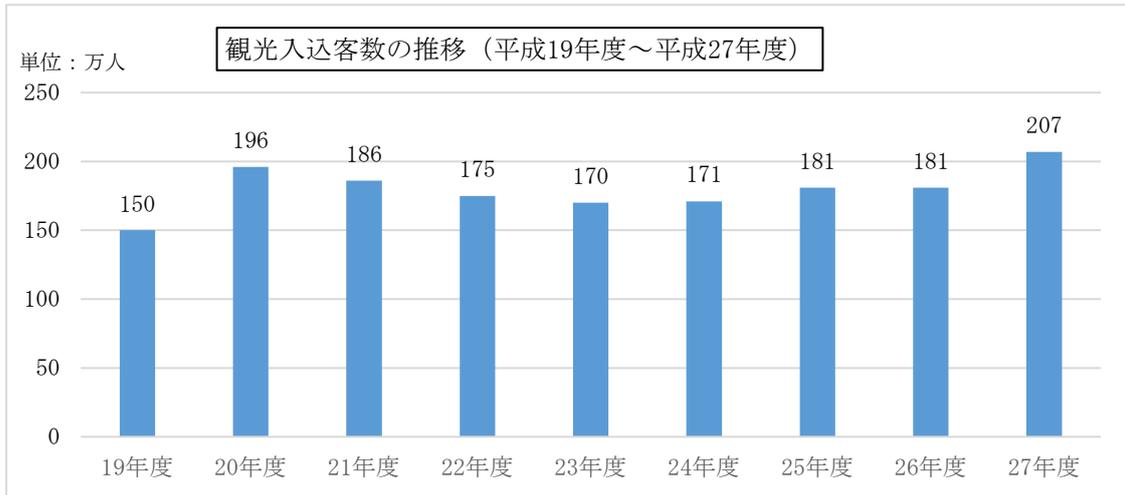
本市の観光入込客数については、平成22年度までは、年間170万人程度で推移していましたが、平成23年に「地物市場『とれのさと』」の開業、平成27年には「番屋の湯」が再開するなどの要因により大幅に増加し、平成27年度では、初めて200万人（207万人）を超える結果となりました。また、第1次観光振興計画策定時の平成19年度である150万8千人から平成27年度の207万人を比較すると37.3%増となっております。（図表1）なお、道内・道外観光客の内訳については、道内客がそのほとんどを占めており、また、日帰り観光が多いのが現状です。

月別の動向としては、季節格差が顕著で、平成27年度調査では、最も少なかった1月の4万人と、最も多かった8月の59万人を比較すると、およそ14.6倍の格差があります。（図表2）

地域別の内訳としては、平成27年度調査では、207万人のうち、旧石狩地区が約125万人（60.4%）、厚田区が約69万人（33.2%）、浜益区が約13万人（6.4%）となっております。（図表3）

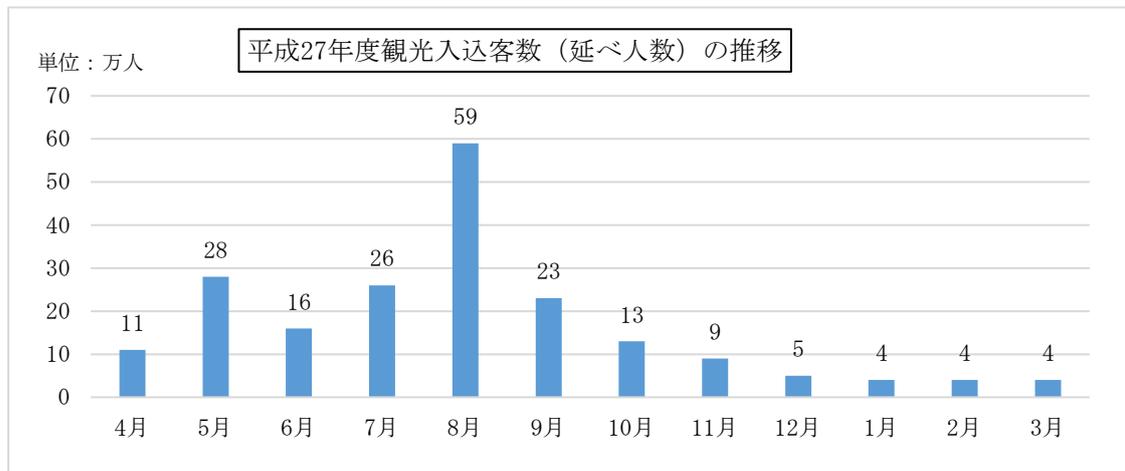
観光施設等別の内訳としては、スポーツ・レクリエーション施設が77.7万人と全体の37.5%を占めています。1位は、道内屈指の桜の名所である「戸田記念墓地公園」であり、このほか、石狩浜海水浴場「あそびーち石狩」や農産品の直売所である「地物市場『とれのさと』」も多くの来場数となっています。（図表4）

【図表1】



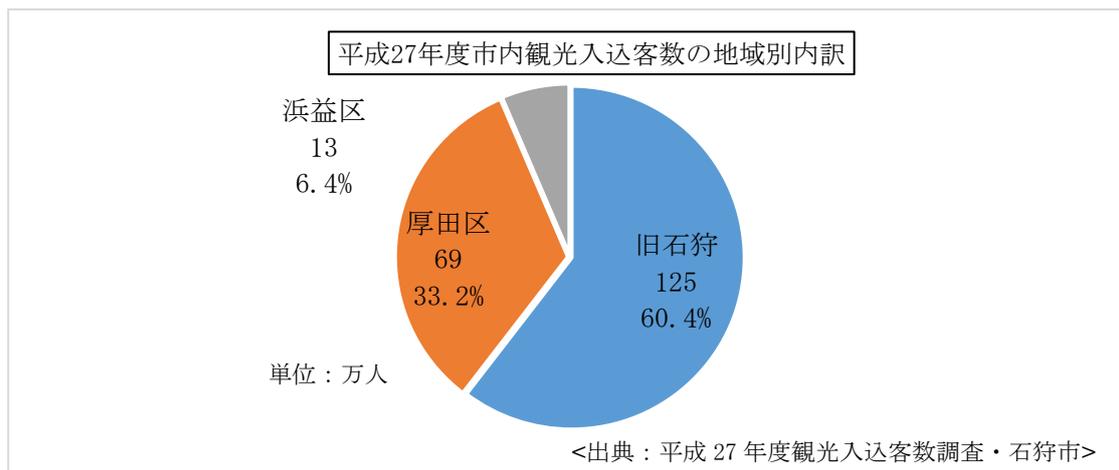
<出典：平成27年度観光入込客数調査・石狩市>

【図表2】



<出典：平成27年度観光入込客数調査・石狩市>

【図表3】



<出典：平成27年度観光入込客数調査・石狩市>

【図表 4】

平成 27 年度市内観光入込客数の観光施設等別内訳

分類	観光対象地	エリア	入込客数(人)	構成割合
自然			467,490	22.6%
	樽川公園	旧石狩	5,851	
	戸田記念墓地公園	厚田区	419,292	1位
	厚田公園	厚田区	34,236	
	千本なら	浜益区	4,924	
	黄金山	浜益区	1,710	
	毘砂別展望台	浜益区	1,477	
歴史・文化			3,188	0.2%
	いしかり砂丘の風資料館	旧石狩	2,436	
	はまます郷土資料館	浜益区	752	
温泉			217,207	10.5%
	石狩天然温泉 番屋の湯	旧石狩	159,620	5位
	浜益保養センター	浜益区	57,587	
スポーツ・レクリエーション施設			776,776	37.5%
	石狩浜海水浴場「あそびーち石狩」	旧石狩	201,670	3位
	サテライト石狩	旧石狩	238,860	2位
	旧石狩内ゴルフ場(4箇所)	旧石狩	112,675	
	ウエイクボードフェスティバル	旧石狩	2,000	
	シーサイドみなくるパークゴルフ場	厚田区	11,522	
	厚田区内ゴルフ場(4箇所)	厚田区	121,244	
	厚田区内海水浴場 ※海浜プール除く	厚田区	23,358	
	濃昼海浜キャンプ場	厚田区	1,985	
	フロンテア乗馬クラブ	厚田区	6,197	
	厚田海浜プール	厚田区	13,165	
	川下海水浴場「はまますピリカ・ビーチ」	浜益区	22,782	
	川下海浜公園キャンプ場	浜益区	17,952	
	「いっぺ、かだれや」林道ウォーク	浜益区	133	
	サケ釣獲調査	浜益区	3,233	
食・グルメ			369,490	17.8%
	地物市場とれのさと	旧石狩	169,482	4位
	ホクレンパールライス工場	旧石狩	8,652	
	サーモンファクトリー	旧石狩	131,471	
	いしかり湾漁協「朝市」	旧石狩	17,600	
	あつた港朝市	厚田区	26,300	
	浜益ふるさと市場(朝市)	浜益区	14,100	
カフェ・ガル	浜益区	1,885		
イベント			175,600	8.5%
	石狩さけまつり	旧石狩	32,000	
	RISING SUN ROCK FESTIVAL in EZO	旧石狩	65,000	
	いしかり浜サンドパーク	旧石狩	6,100	
	寒中屋台村	旧石狩	5,000	
	石狩まるごとフェスタ	旧石狩	53,000	
	厚田ふるさとあきあじ祭り	厚田区	11,000	
浜益ふるさと祭り	浜益区	3,500		
案内所			58,266	2.8%
	石狩観光センター「ゆめポート」	旧石狩	10,480	
	ビジターセンター	旧石狩	28,900	
	あいロード夕日の丘観光案内所	厚田区	18,886	
その他			2,534	0.1%
	浜益区内民宿	浜益区	2,534	
合計			2,070,551	100%

<出典：平成 27 年度観光入込客数調査・石狩市>

2 課題

(1) 観光資源の磨き上げと発信

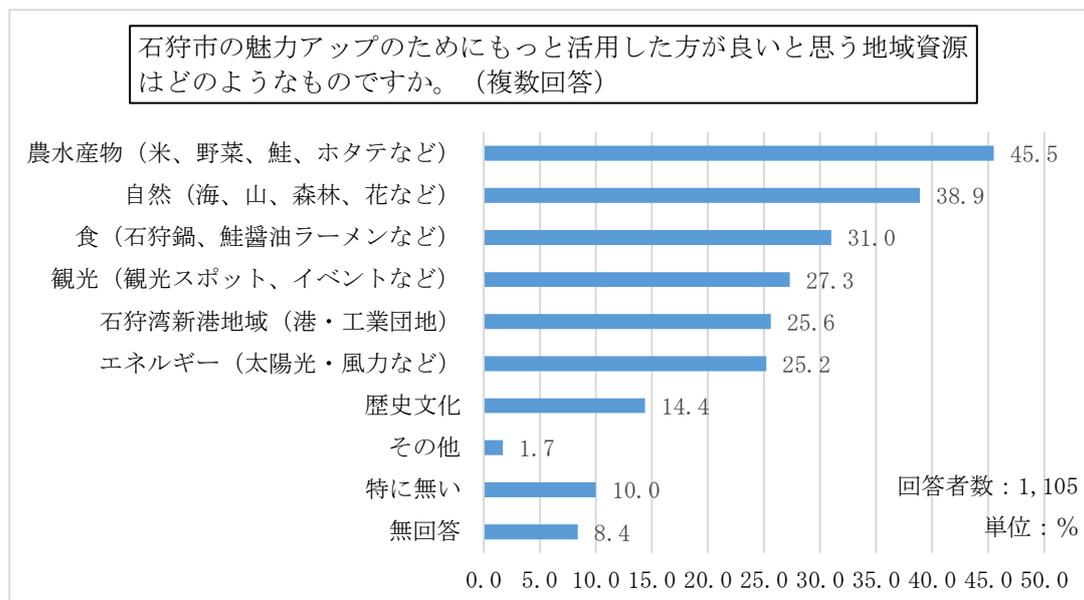
観光入込客数の推移（平成 19 年度～平成 27 年度）（図表 1）の状況からも分かるように、本市に訪れる観光客数は近年ほぼ横ばいで推移しています。

首都圏等において、「石狩鍋」は知っていてもその発祥の地である「石狩市」については知らないという話はよく聞くことがあり、観光地としての印象以前にまちとして知名度が低いことが伺えます。また、本市は、道内最大の人口を有し、多くの道内外の観光客が訪れている札幌圏に位置しているながら、圏域で唯一、農山漁村全てを備えていることや、本市の特色であるサケやニシン漁にまつわる歴史・文化など豊富な観光素材があるという高いポテンシャルを有している一方で、海水浴場やその他にも入込客数の減少が見立つ観光施設等があることから、その磨き上げと発信が不足していると言われていています。また、宿泊施設や土産店、観光事業者が少ないなど観光で地域が潤うために必要な消費施設等が少ないことや入込客数が多い施設が限定されている現状もあります。このほか、平成 30 年に開業予定の道の駅石狩「あいろーど厚田」を核として、自然や体験型観光の素材が豊富に存在する石狩北部地域の面的な魅力アップも必要です。

「平成 27 年度市民意識に関するアンケート調査」での、「石狩市の魅力アップのために、もっと活用した方が良いと思う地域資源はどのようなものですか」

（図表 5）という問いの回答結果からも、市民から本市の特色を活かした様々な地域資源の魅力アップが求められていることが伺えます。

【図表 5】



〈出典：平成 27 年度市民意識に関するアンケート調査・石狩市 平成 28 年 1 月実施〉

(2) 市内周遊の促進

平成 27 年度市内観光入込客数の観光施設等別内訳（図表 4）からも分かるように「あそび一ち石狩」や「地物市場『とれのさと』」などの施設や「石狩市三大秋祭り」や「石狩まるごとフェスタ」など、石狩観光協会や商工・農業関連団体などの継続的な努力により、既に多くの観光客が訪れている実績があります。今後は、PR の強化や更なる内容の充実による価値の向上を図るほか、民間事業者等が主催するイベントとの連携強化や新たな誘致などにより、来場者の増加を図るとともに、来場を機に、少しでも多くの観光スポット等に立ち寄ってもらえるよう周遊を促進することや石狩に興味をもってもらい、また行ってみたいと感じる方を増加させる取り組みを進めることが必要です。また、本市は、道内最大の人口を有し、多くの観光客が訪れている札幌圏に位置している地理的優位性を活かし、札幌市民をはじめ道内外の観光客に本市に足を伸ばしてもらい、市内を周遊してもらうため、公共交通機関はもちろん、レンタカーやタクシー事業者などの二次交通とも連携した取り組みを進めていくことが重要であると考えられます。さらには、観光のきっかけになりやすい「食」についても、本市の豊富な素材を活かした特産品づくりとその販路拡大により、まちの魅力を象徴するものとして観光資源とともにPR を強化していくことも必要です。

(3) 「サケの歴史・文化」の再興とその価値の向上

本市は、松前藩時代、藩主の直領地として「石狩場所」が設置され、和人とアイヌがサケを中心とした物産の交易の場として機能したことや北海道の郷土料理の代表でもある「石狩鍋」の発祥の地であることなど、サケの恩恵を受けながらその歩を進めてきた歴史があります。近年では、石狩観光協会が江戸幕府の献上品であった「寒塩引」を当時の製法そのまままで復活させ、生産・販売するなどの取り組みを行っているところです。平成 25 年には、NPO 法人北海道遺産協議会より「サケの文化を守り伝える担い手」の一つとして本市が認定されたことや平成 27 年には、2015 ミラノ国際博覧会の北海道の日において、北海道を代表する郷土料理として「石狩鍋」が紹介されたこともあり、今後はこれらの実績を効果的に活用し、国内外に本市の魅力を広くPR していくことが重要であると考えられます。さらには、本市のサケの歴史・文化を象徴するイベントである「石狩市三大秋祭り」などにおいて、サケの歴史・文化の再興とその価値の向上を目指した取り組みを進めるなど、本市がサケの観光地として、国内外に広く発信できるように磨き上げを行っていく必要があります。

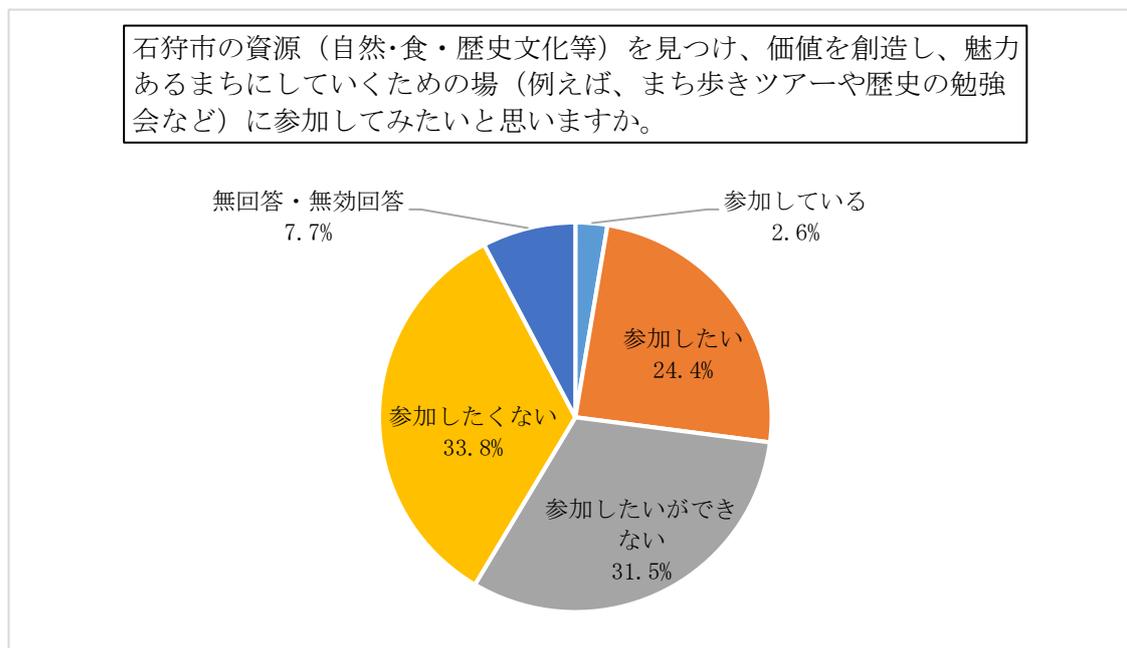
(4) まちが一体となった観光振興

観光は「まちの魅力のショーケース」として、地域の様々な魅力を効果的に発信していく役割を持ちます。そのショーケースに並ぶものは、「景色」であったり、「食」であったり、「歴史」であったり、「人」であったり、実に様々なものがあげられます。だからこそ、これらの魅力に関わるものが一体となって観光

振興を進めていくことが地域に心の潤いや経済的な潤いの好循環を継続的に生み出すことにつながっていきます。例えば、地場企業等は、市内外の観光関連事業者と連携し、観光をビジネスチャンスとして捉え、自らの商品を売り込んでいくことが重要であり、また、農業や漁業などにおいても近年の着地型観光[※]ニーズの高まりから、体験・交流型の観光素材としてのポテンシャルの高さが注目されています。「あそびーち石狩」や「石狩市三大秋祭り」などの本市における集客の目玉といえるイベント等を運営している石狩観光協会においては、地域と連携を深めながら事業の拡充を図るとともに更なる組織の強化や経営の安定化も求められています。そして、何よりも、市民一人一人がまちの魅力を認識し、発信していくことが持続可能な観光振興にとって大切なことです。市が実施した「平成27年度市民意識に関するアンケート調査」にて「石狩の資源を見つけ、価値を創造し、魅力あるまちにしていくための場に参加してみたいと思いますか？」（図表6）という問いでは、参加意欲がある層（参加している、参加したい、参加したいができない）が全体の約6割をも占めていることから、今後も参加する場の提供を拡充していくことが重要であると考えられます。

近年、観光客は地域との交流を求める傾向が強くなっていることから、今後もオール石狩で観光振興を図る機運を更に高めていく必要があります。

【図表6】



＜出典：平成27年度市民意識に関するアンケート調査・石狩市 平成28年1月実施＞

※着地型観光 旅行者を受け入れる側の地域（着地）側が、その地域でおすすめの観光資源を基にした旅行商品や体験プログラムを企画・運営する形態。独自性が高く、その地域ならではのさまざまな体験があることから、各地域の魅力を味わうことができる。（国土交通省観光庁HPより一部抜粋）

IV 目指す「石狩市の観光」の姿

1 計画の期間

本計画は、平成 29 年（2017）年度から平成 33（2021）年度までの 5 年間で取り組みます。なお、計画策定後は、この進捗状況の把握に努めるとともに、観光を取り巻く社会的情勢の変化などに対応し、必要に応じて計画の見直しを行うこととします。

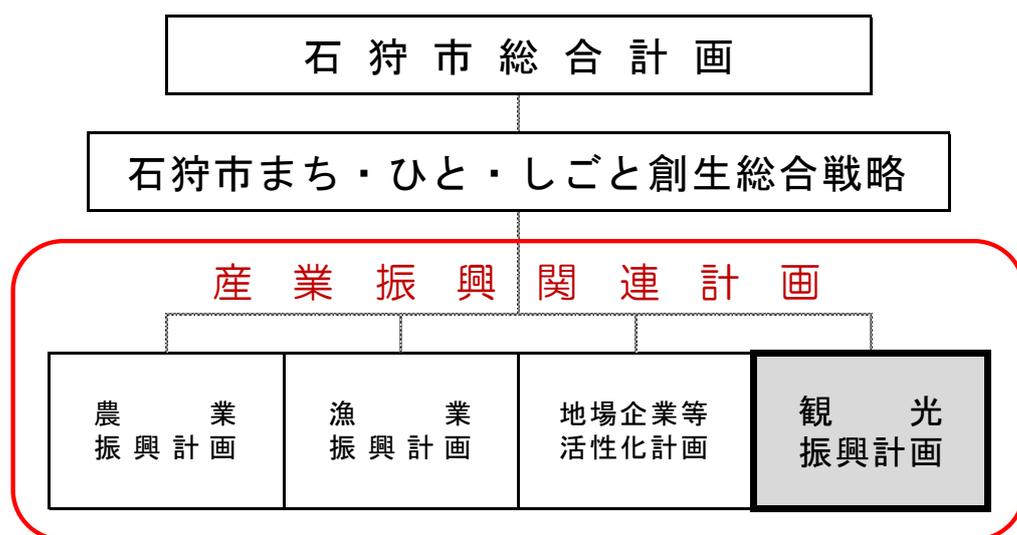
2 計画の位置づけ

(1) 計画の位置付け

観光振興計画は本市の最上位計画である、第 5 期石狩市総合計画に基づき、「30年後のまちの持続」、「石狩PRIDE[※]の醸成」の実現に向けて、本市の観光振興の進むべき方向性とあり方を示すものです。

観光は、自然や食をはじめ、まちづくり、広域連携、スポーツなど、幅広い分野の様々な要素から構成されているため、社会情勢の変化等に影響を受けやすいという側面があります。そのため、「石狩市まち・ひと・しごと創生総合戦略」をはじめ、産業振興に関連する 4 つの計画との整合性を図りながら推進していきます。

【石狩市総合計画と産業振興関連計画との相関関係】



(2) 産業振興関連計画における共通テーマおよび連携して取り組むべき項目の設定

産業振興関連計画の 4 計画については、それぞれが有する目的や性格等はしっかりと位置づけながら、共通するテーマ（課題・方向性）の設定や横の連携を意識し

※石狩 PRIDE いしかりへの愛着、誇り

た内容としました。

連携するにあたっては、下記に示す共通のテーマと連携して取り組むべき項目を設定するとともに、策定の過程において、各計画の検討組織からの代表者で組織する連絡調整会議を開催し、相互の連携や整合性を図りながら作業を進めました。

【共通のテーマおよび連携して取り組むべき項目】



【石狩市産業振興関連計画策定委員連絡調整会議】

会議構成メンバー

所属する策定検討組織	氏名	所属団体等
農業振興計画策定委員会	小林 国之	北海道大学大学院 農学研究院
農業振興計画策定委員会	大田 富夫	石狩市農業協同組合
漁業振興計画検討関係機関連絡会議	和田 郁夫	石狩湾漁業協同組合
漁業振興計画検討関係機関連絡会議	秋 芳男	指導漁業士
地場企業等活性化審議会	北山 雀	中小企業診断士
地場企業等活性化審議会	酒井 志津子	石狩商工会議所
観光振興計画検討会	吉田 保雄	石狩観光協会
観光振興計画検討会	吉田 和彦	地域振興アドバイザー

会議の開催状況

- 第1回 平成28年10月21日（月） 市役所301会議室
- 第2回 平成29年2月6日（月） 市役所301会議室

3 計画の具体的な展開

本市の観光振興における課題の解決を図るため、「地域個性を活かした観光で潤う」、「持続可能な観光で潤う」という2つの基本方針を掲げ、5つの基本施策と13の重点的に取り組む具体的な施策を展開します。また、観光振興は、農業、漁業、商工業などが一体となった裾野の広い取り組みであり、その生み出す経済効果は多岐にわたることから、産業振興関連計画と連動しながら推進していきます。なお、他計画と関連がある事業については、該当計画を標記しています。例：地場企業等活性化計画

【計画の体系図】

基本方針	基本施策	重点的な取り組み		
地域個性を活かした観光で潤う	観光資源の活用と整備	海辺の魅力アップ 大規模イベントの誘致及び連携強化	イベントの魅力アップ 魅力ある観光ルートづくり	道の駅を核とした石狩北部地域観光の充実 海外へ向けた情報発信
	サケやニシンの歴史・文化の発信	鮭の食の発信	サケやニシンの歴史・文化の発信	「サケ育」の推進
	石狩ブランドの確立	総合的な物産の支援機能の拡充		
持続可能な観光で潤う	観光関連事業者への支援	石狩観光協会との一体的な推進		
	市民が活躍する観光まちづくり	市民観光サポーターの推進	まちガイドの育成・支援	「サケ育」の推進〔再掲〕

(1) 「地域個性を生かした観光」で潤う

基本施策	重点的な施策
観光資源の活用と整備 本市の歴史・文化や自然、観光施設、イベントなどにおいて、既存の資源の磨き上げを図るとともに新たな資源の創出にも取り組み、情報発信を強化することで来石の「目的づくり」を行いながら、市内周遊を促進します。	海辺の魅力アップ 強力な集客素材の一つとなっている海水浴場において、来場者の安全確保に向けて一層取り組みを進めるとともに体験プログラムなどの新たなサービスの導入やイベントの拡充など、地域の魅力のPRを強化することで来場者の満足度向上を図りながら、更なる集客を目指します。また、体験型観光や温泉、豊富な海浜植物など周辺の資源も組み合わせて海辺の魅力として一体的に発信していきます。
	イベントの魅力アップ 石狩市三大秋祭りなどのイベントにおいて、本市の特色であるサケやニシンの歴史・文化などの観光素材を強化するこ

とでその価値を高めていくとともに、「食」などの集客力が高い要素も発展させることで来場者数の増加を図って行きます。また、地域と更に一体となった運営を行い、来場者へ「おもてなし空間」を提供するなど魅力アップに向けた取り組みを進めます。

道の駅を核とした石狩北部地域観光の充実

暑寒別天売焼尻国定公園に代表される風光明媚な観光地域である石狩北部地域について、歴史や文化などの地域資源の価値を高めていくとともに、平成30年に開業予定の道の駅石狩「あいろ一ど厚田」を拠点とした周遊の促進を図ります。道の駅の運営会社等と連携を図りながら、山道トレッキングなどの体験観光やニシン漁で栄えた歴史を感じる史跡、果物狩り、温泉などの地域特有の素材の魅力を面でPRするほか、市内全体も含めた周遊ルートも提案していきます。また、観光素材の魅力アップにあたっては、地域振興にも寄与できるよう、観光客と地域住民の交流など地域が主体となる磨き上げを進めていきます。

農業振興計画

漁業振興計画

大規模イベントの誘致及び連携強化

市内では、道内最大級の音楽フェス「RISING SUN ROCK FESTIVAL in EZO」が開催され、道内外から多くの来場者が訪れています。今後は、更なる連携を深めるとともに多様なイベントや映画撮影等の誘致を行うほか、これらを活用した市内周遊の仕組みの構築にも取り組んでいきます。

魅力ある観光ルートづくり

本町地区を中心としたサケの歴史・文化や農山漁村地域を全て有するポテンシャルなどを活かした周遊の促進を図るため、市民や観光ボランティアガイド、石狩観光協会などと協働して多彩なモデルコースを作成するほか、二次交通事業者とも連携しながら広くPRしていきます。また、石狩管内や国道231号線を主要な幹線道路とする日本海オロロンラインの沿線の市町村などと連携した「広域観光」の取り組みも引き続き強化していきます。

海外へ向けた情報発信

国や道、他市町村などの関係機関と連携を図り、本市の

	<p>サケやニシンを中心とした「歴史・文化」や豊富な農産物・海産物などの「食」、自然を活用した「体験型観光」等の情報を海外の旅行会社やメディア等へ、積極的にPRしていきます。また、外国人観光客の受け入れについては、市内事業者への情報提供により受け入れしやすい雰囲気づくりを図るなど支援を行っていきます。さらには、来道の目的の一つとなる「食」のPRについては、産業振興関連計画において物産振興の観点からも検討を進めていきます。</p>
<p>サケやニシンの歴史・文化の発信</p> <p>平成27年にミラノ国際博覧会の北海道の日で「石狩鍋」が紹介されるほど、北海道・本市の歴史・文化を象徴する観光素材の一つとなっている「サケ」や厚田区・浜益区の発展の歴史には欠かすことのできない「ニシン」について、更なる磨きをかけて情報発信をしていくとともに市民が誇るアイデンティティとして認識されるよう意識の醸成を図ります。</p>	<p>鮭の食の発信</p> <p>道外での知名度も高い「石狩鍋」の更なる普及促進を核として、「寒塩引」や「ちゃんちゃん焼き」のほか、市内で生産されている鮭を活用した加工品などを観光素材とともに国内外へ広く発信していきます。</p> <p style="text-align: right;">地場企業等活性化計画</p> <hr/> <p>サケやニシンの歴史・文化の発信</p> <p>石狩発祥の地「本町地区」の鮭漁や厚田区・浜益区の鯨漁とともに発展した歴史・文化を地域住民や観光ボランティアガイド、石狩観光協会などと協働して、魅力の再構築と発信を行い、旅行会社やメディア等へ広くPRしていきます。また、本町地区を、本市を代表する観光エリアとして位置づけ、面的な魅力アップが図れるよう地域が潤う仕組みを検討していきます。</p> <hr/> <p>観光を切り口とした石狩PRIDEの醸成（「サケ育」の推進）</p> <p>児童、生徒などの次世代を担う層を中心に、学びやイベント等の開催によりサケの歴史・文化を伝承していくほか、石狩鍋の調理体験などの生活に身近な食などをおして、サケにふれる機会を拡充させることで、「いしかりへの愛着や誇り（石狩PRIDE）」の形成を図り、市民一人一人がまちの魅力を発信できるよう取り組んでいきます。</p>
<p>石狩ブランドの確立</p> <p>「食」は、観光客の来訪目的の代表的なものであり、また、「食」そのものが地域の魅力を象徴するものであるため、その価値の向上に取り組むとともに観光プロモーションと一体的に展開していきます。</p>	<p>総合的な物産の支援機能の拡充</p> <p>市内において、特産品の開発や新たなものづくりに加え、それを集約し、販路拡大までを総合的に支援できる機能の拡充に向けて、産業振興関連計画において、横断的に推進をしていきます。</p> <p style="text-align: right;">産業振興関連計画</p>

(2)「持続可能な観光」で潤う

基本施策	具体的な施策
<p>観光関連事業者への支援</p> <p>観光を切り口として、地場企業等の経済活動が活性化されるよう、地場企業や石狩観光協会、道の駅の運営会社、市内外の観光関連事業者等への情報提供や連携などにより、新たなビジネスチャンスの創出や事業の拡大を支援します。また、日本版DMOの形成についても情報収集を行いながら長期的に検討していきます。</p>	<p>石狩観光協会との一体的な推進</p> <p>観光業界は常に新たなトレンドに対し、迅速且つ的確に対応した施策を展開することが必要不可欠であり、その役割を担うことができるのは市内の観光関連事業者等で組織されている「石狩観光協会」です。</p> <p>市は、市内で唯一の観光資源のマネジメント役である観光協会が活動しやすい環境づくりに取り組むとともに観光施策の推進にあたっては、観光協会と両輪となって取り組み、地域への経済効果の最大化を図っていきます。</p>
<p>市民が活躍する観光まちづくりの推進</p> <p>市民がまちの魅力を認識し、自ら発信することで観光客等との交流を促進するとともに、市民が観光を切り口に気軽にまちづくりに参加できるように環境づくりを行います。また、観光振興に関わる各種取り組みを進めるにあたっては、市民や観光・歴史・自然・まちづくりに関連する市民団体等との連携を強化して、広がりのある事業展開を図っていきます。</p>	<p>市民観光サポーターの推進</p> <p>市民が地域の魅力に気付き、理解し、自ら観光の取り組みに参加することで、まちが丸となって観光を推進出来るよう意識の醸成を図ります。また、観光資源の魅力アップや観光イベント、施設の運営などにあたっては、市民との協働を一層推進し、新たな可能性を模索していきます。</p> <p>まちガイドの育成・支援</p> <p>「石狩ガイドボランティア」などの地域の魅力を対面で発信するガイドは、まちの「語り部」として、また、観光客の満足度向上において重要な役割を担います。そのため、良質なガイドの育成や新たな人員の確保などに取り組むとともに市内のガイド同士の連携強化や市民活動団体等とのネットワークづくりを推進します。</p> <p>観光を切り口とした石狩PRIDEの醸成 (「サケ育」の推進) 再掲</p> <p>児童、生徒などの次世代を担う層を中心に、学びやイベント等の開催によりサケの歴史・文化を伝承していくほか、石狩鍋の調理体験などの生活に身近な食などをおとして、サケにふれる機会を拡充させることで「いしかりへの愛着や誇り(石狩PRIDE)」の形成を図り、市民一人一人がまちの魅力を発信できるよう取り組んでいきます。</p>

4 計画の進行管理

この計画に基づき実施する施策については、産業振興関連計画（4計画）の策定関係者等で構成する組織などにより、毎年度、進捗状況の把握と必要な検討調整を図りながら、次年度以降より効果的・効率的なものにしていくこととします。

5 計画の推進体制

本計画を推進するにあたっては、主体となる市民、地場企業等、観光事業者、石狩観光協会と市が協働して、まちの魅力づくりとその発信を行い、地域における心の潤いや経済の潤いの好循環を形成していくことで事業効果の最大化を目指します。

(1) 市民に求められるもの

自らの視点でまちの魅力を発見することが、観光まちづくりに参画する第一歩となります。自分が大事にしたい「まちの魅力」を見つけ、家族、友人、知人に伝えていくとともに地域の皆さんでその魅力をもっと自慢できるように磨き上げることが求められます。また、石狩を訪れた方には「おもてなし」の意識であたたかく迎えていくことも大切なことです。

(2) 地場企業等や観光事業者求められるもの

地場企業等は観光を自らのビジネスチャンスとして捉え、市内外の観光事業者とともに観光客のニーズを的確に把握し、地域の魅力を有効活用したサービスを提供するとともに地域の観光振興へ向けた取り組みにも積極的に参加するなど地域の発展にも寄与することが求められます。

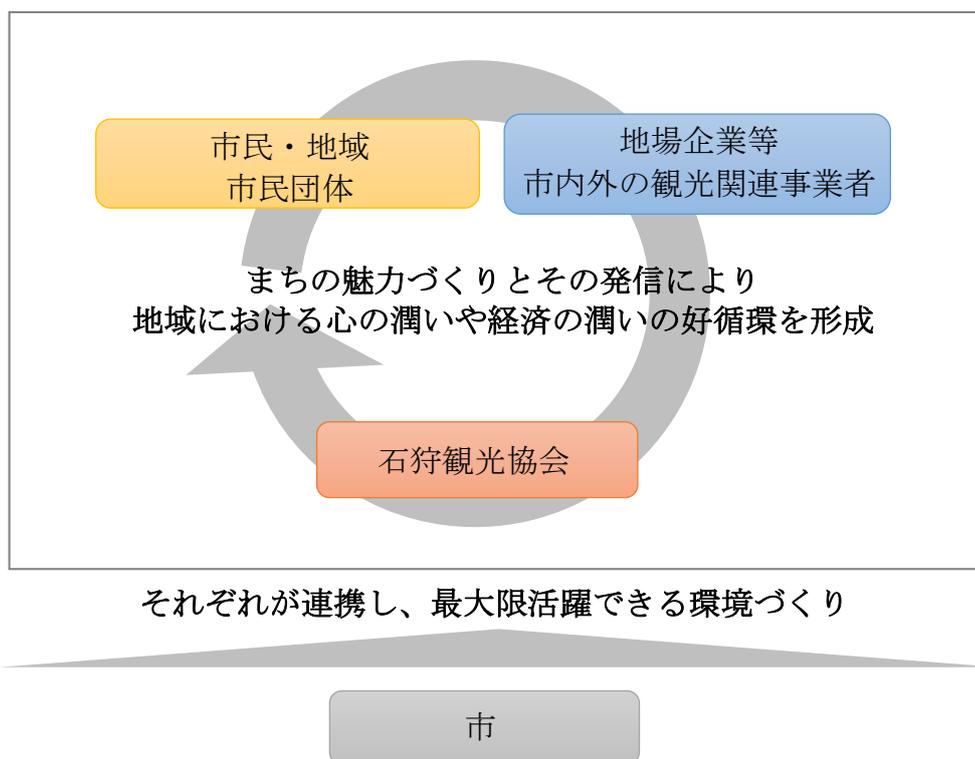
(3) 石狩観光協会に求められるもの

石狩観光協会は、「観光産業の健全な発展を図り、市民生活文化の向上と地域産業経済の発展に寄与する」というその設立目的を踏まえ、市内の観光資源を効果的にPRしていくほか、イベントや海水浴場などの集客力が期待される観光素材を核に魅力アップと地域への経済波及効果の最大化を図っていくことが求められます。

(4) 行政の役割

市民・観光事業者・観光協会が観光振興計画で掲げた共通の理念や目的のもと、オール石狩体制で観光振興が図られるよう全体のコーディネート役になるとともにそれぞれが協働して最大限に活躍できる環境を整備することに努めます。

【推進体制のイメージ】



6 計画のキャッチフレーズ

観光まちづくり宣言

～市民も地域も産業も生き生き！笑顔がつくる観光地「石狩市」～

本計画を推進するにあたり、本計画に関わる人すべてが分かりやすく親しみやすい「キャッチフレーズ」を掲げます。

このキャッチフレーズには、「前計画で発掘した『石狩の宝』を活用しながら、観光を切り口とした石狩市らしいまちづくりを推進していくことで、市民も地域も産業も活気づき、市外からの観光客を含めたすべての人の笑顔が溢れる観光地をつくっていく」という思いが込められています。

V 計画策定にあたって

1 石狩市観光振興計画検討会の開催

本計画の策定にあたり、本市の観光振興に関する団体等が連携し、魅力的な計画策定及びその推進に向けた検討を行うため、「石狩市観光振興計画検討会」を設置し、議論を重ねました。

(1) 検討会の委員

役職	委員氏名	団体名	団体役職
会長	吉田保雄	一般社団法人 石狩観光協会	専務理事
副会長	吉田和彦	企画経済部渉外調整担当	地域振興アドバイザー
委員	大田富夫	石狩市農業協同組合	営農部長
委員	長谷川司	北石狩農業協同組合	厚田支所長
委員	和田郁夫	石狩湾漁業協同組合	専務理事
委員	中林義雄	石狩商工会議所	青年部筆頭副会長
委員	尾山忠洋	石狩北商工会	事務局長
委員	本間貴士	石狩青年会議所	監事
委員	三上正信	一般社団法人 石狩観光協会	浜益事務所長

(2) 経緯・経過

- 平成28年7月8日 検討会委員の選任
- 8月3日 第2次石狩市観光振興計画検討会（第1回）
- 10月24日 第1回石狩市産業振興計画策定委員連絡調整会議
- 11月15日 第2次石狩市観光振興計画検討会（第2回）
- 12月20日 パブリックコメントの実施（～平成29年1月20日まで）
- 平成29年2月6日 第2回石狩市産業振興計画策定委員連絡調整会議
- 3月21日 第2次石狩市観光振興計画検討会（第3回）

【参考】その他、アンケート等の実施

(1) いしかり浜サンドパーク2016来場者アンケート（平成28年7月実施）

「石狩市は観光のまちだと思いますか」という問いに「思わない・どちらかといえば思わない・どちらでもない」という回答が6割となっており、本市の観光地としてのイメージの薄さが伺えました。また、「石狩の観光といえばどのようなイメ

ージがありますか。」という問いに、「サケの歴史・文化」のほか、「海水浴、朝市、新鮮な海産物」という回答が多く、海に関するイメージが強いことも伺えました。（回答者数109人）

(2) 石狩さけまつり観光フォーラム（平成28年9月実施）

石狩さけまつりの開催にあわせて、サケの歴史・文化をテーマにした講演会と観光振興計画案の紹介、参加者との意見交換を行いました。参加者からは、「サケの歴史・文化に石狩の自然などの魅力も組み合わせるPRすることが必要」、「市民にもまちに自信と誇りを持ってほしい」などのご意見をいただきました。（参加者約50人）

(3) 国際協力機構（JICA）外国人研修員による市内観光施設フィールドワーク（平成28年9月実施）

アルバニアやブータン、インドなど9カ国から観光分野の官庁職員等が厚田、浜益区の体験型観光施設等を中心に訪問。研修員から概ね好評を得たとともに様々なアドバイスをいただきました。また、訪問施設の担当者からは、実際に外国人に接するとインバウンドの受け入れは思っていたよりハードルは高くなかったなど前向きな意見をいただきました。

(5) 食育に関するアンケート（平成28年10月実施）

市保健福祉部が食育基本計画の策定にあたり、市内小学校6校の1、3、5年生及び市内中学校4校の1年生、2年生の保護者を対象に実施したアンケートにおいて、「食や地域の歴史・文化などを通したお子さんの郷土愛を育む取り組みは重要だと思いますか。」という問いに対し、約半数が「重要である」と回答しており、その必要性の高さが伺えました。（回答者数約1,300人）

第2次 石狩市観光振興計画（H29～H33）

観光まちづくり宣言

発行／北海道石狩市 平成29年4月

編集／北海道石狩市企画経済部商工労働観光課観光担当

〒061-3292 北海道石狩市花川北6条1丁目30番地2

TEL (0133) 72-3167 FAX (0133) 72-3540

URL: <http://www.city.ishikari.hokkaido.jp>

E-mail: kankou@city.ishikari.hokkaido.jp